

## 老後の平均的な寿命と同居家族や要介護生活について

——「安心して老いることの出来る社会」は女性にとってとりわけ大きな課題です——

[ 8 ページ ]

2005. 11. 12 矢島義恭

### A 高齢者の寿命はいくつまで

#### A-1 85歳以上の寿命の方が半数近くに

- a 長寿化がすすみ、85歳以上で亡くなる方が半数近くなった
- b 90歳以上の寿命の方は3人に1人
- c 60歳から後の定年後の人生は長い
- d 配偶者介護や終末看護の高齢化

#### A-2 男女の違いが大きい死亡時年齢

- a 女性の半数近くの死亡時年齢は90歳以上
- b 男性の40%の死亡時年齢は80歳前です
- c 配偶者がいない女性は増え続ける
- d 一人暮らし高齢者の多くは女性

### B 老後の暮らしの家族形態

#### B-1 高齢者人口と高齢者だけの世帯が急増している

- a 高齢者人口は急増している
- b こども夫婦と同居する高齢者の比率は急減し、4人に1人となった
- c ひとり暮らし高齢者は急増し、7人に1人となった
- d 夫婦のみで暮らす高齢者は急増し、3人に1人となった
- e ひとり暮らしや夫婦のみと、高齢者だけで暮らす世帯が急増し、48%と半数近くになった
- f 配偶者のいない子どもとくらす高齢者は急増し、5人に1人となった

#### B-2 80歳以上の女性高齢者では、配偶者のいない方が82%

- a 女性高齢者全体で配偶者のいない方は51%、ほぼ半分になります
- b 男性高齢者全体では86%に配偶者がおり、女性に較べて比率が高い
- c 65~69歳の女性では、配偶者のいない方がすでに30%もいます
- d 80歳以上の女性では、配偶者のいない方が82%という高い比率です
- e 高齢期を、男性は配偶者と共に暮らせる可能性が高い
- f 女性は配偶者なしで暮らす可能性が高く、歳とともに配偶者なしの方が多くなります

#### B-3 80歳未満の配偶者のいない女性高齢者では、ひとり暮らしが半数近い

- a 女性高齢者全体の19%がひとり暮らし
- b 配偶者のいない80歳未満の女性高齢者では、ひとり暮らしが半数近い
- c 配偶者のいる女性高齢者では、夫婦のみで暮らす方が半数以上です

#### B-4 夫婦のみで暮らす男性高齢者は、全体の半数近くになる

- a ひとり暮らしの男性高齢者は、全体の7%で女性より少ない
- b 配偶者のいない男性では、約半数がひとり暮らしをしている
- c 配偶者のいる男性高齢者で、夫婦のみで暮らす方は女性と同様に半数以上です

### C 要介護生活に入るのはいつ頃

#### C-1 要介護生活は80歳前後から多くなる

- a 長寿社会となり要介護生活に入るのも高齢化
- b 前期高齢者では、要介護生活は7%以下
- c 80歳前後から、要介護生活の人が急速に増えています
- d 親の介護問題に直面するのは50歳前後から、60歳代が多くなります

#### C-2 90歳以上の女性では70%が要介護認定

- a 女性は男性より沢山の人が要介護生活で暮らしています
- b 女性は男性より年齢的に早くから要介護生活に入ります
- c 90歳以上の女性では70%が要介護認定です

- d 「女性が安心して老いることの出来る社会」に向けて高齢者福祉の検討が必要です

## A-1 85歳以上の寿命の方が半数近くに

2000.10.17 矢島義恭

### a 長寿化がすすみ、85歳以上で亡くなる方が半数近くなった

長寿社会となり、60歳の人々の平均余命は男性で82歳、女性で88歳になりました。実際の死亡時年齢のデータを「長野日報HP」の1年間の『きょうの葬儀』ページより作成し、グラフ化してみました。

85歳以上で亡くなる方は、60歳以上の中では49%と半数近くになりました。

平均的な年齢だけでなく、死亡時年齢の個人差は大きいので、そうした点もグラフデータより読みとって頂きたい。老後の備えについてのさまざまな示唆が見えてきます。

### b 90歳以上の寿命の方は3人に1人

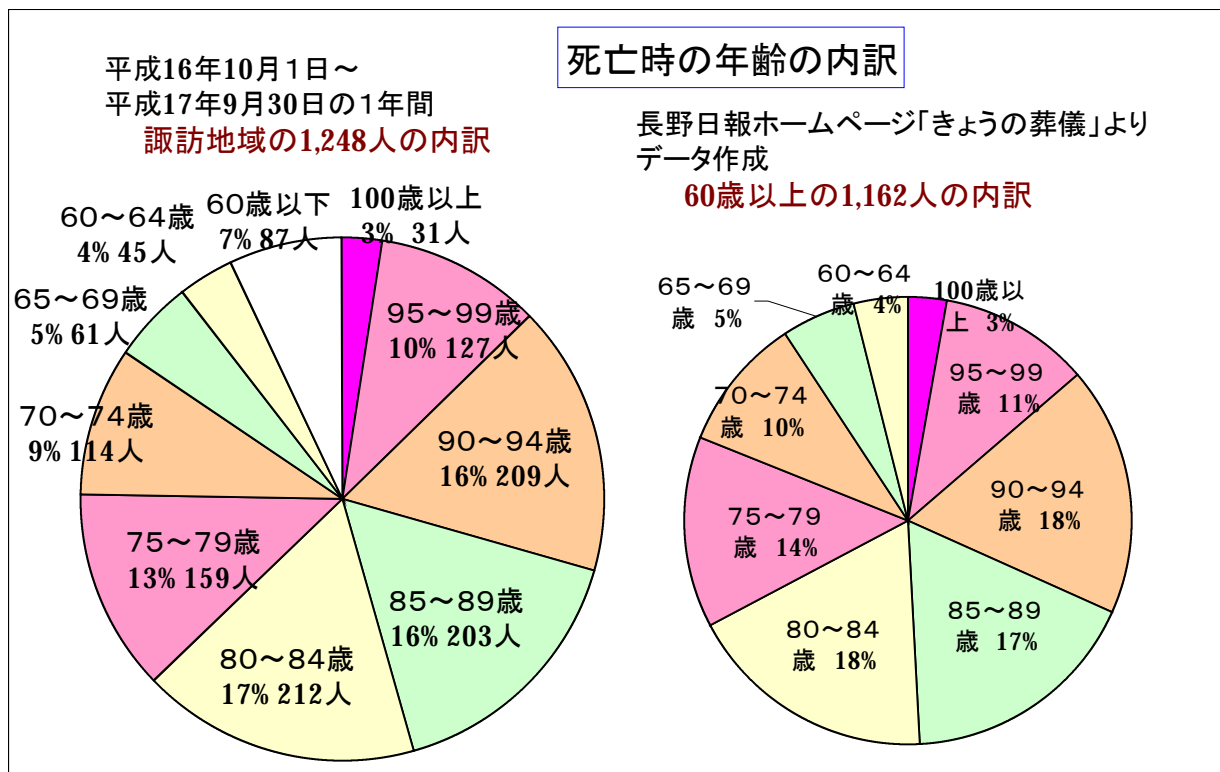
90歳以上という高齢で亡くなる方は29%、60歳以上のシニアでは32%となり、90歳以上の寿命の方が3人に1人となりました。

### c 60歳から後の定年後の人生は長い

85歳以上の寿命ということは、半数の人には定年年齢以後に25年以上の人生があり、3人に1人は30年以上の人生があるということになります。

### d 配偶者介護や終末看護の高齢化

配偶者の死亡時年齢が80歳代、90歳代で多くなるということは、看護や介護をするのも同年代となるので、配偶者の超高齢での老々介護が多くなります。子どもが看る場合でも50歳代、60歳代で介護問題に直面することになるから老々介護となります。一人暮らし高齢者も超高齢化するので、「地域支援」や「施設支援」の整備が課題となります。



## A-2 男女の違いが大きい死亡時年齢

2000.10.17 矢島義恭

### a 女性の半数近くの死亡時年齢は90歳以上

60歳の女性の平均余命は88歳という長寿社会になりましたが、諏訪地域の60歳以上女性の死亡時年齢ではその43%で、女性の半数近くは90歳以上の寿命を享受できます。

### b 男性の40%の死亡時年齢は80歳前です

60歳の男性の平均余命は82歳となりましたが、60歳以上男性の40%は80歳未満で死亡しており、女性と比較して著しく早い。90歳以上の寿命の人は20%弱にすぎません。

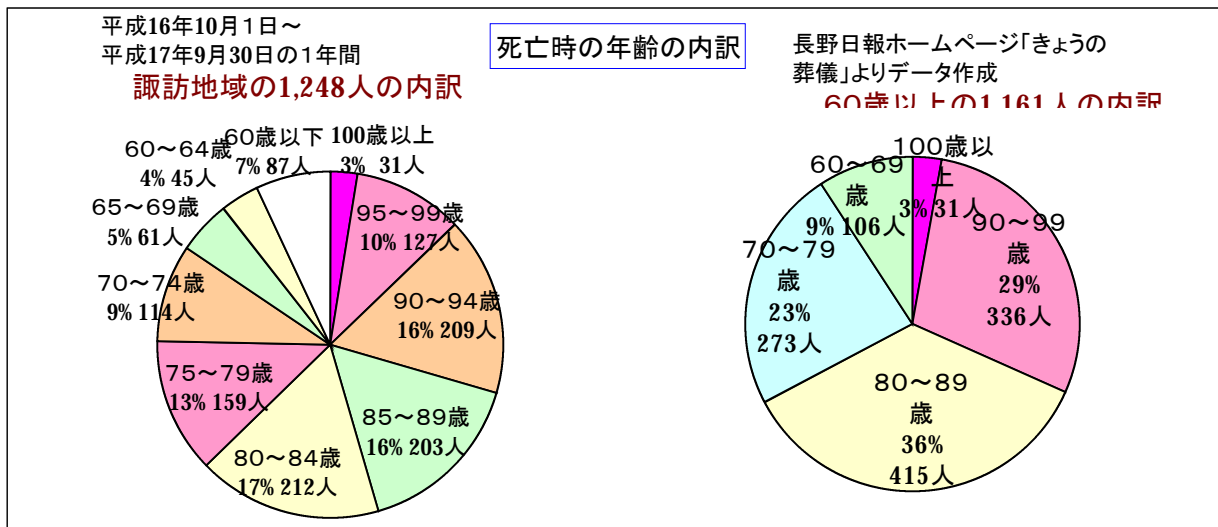
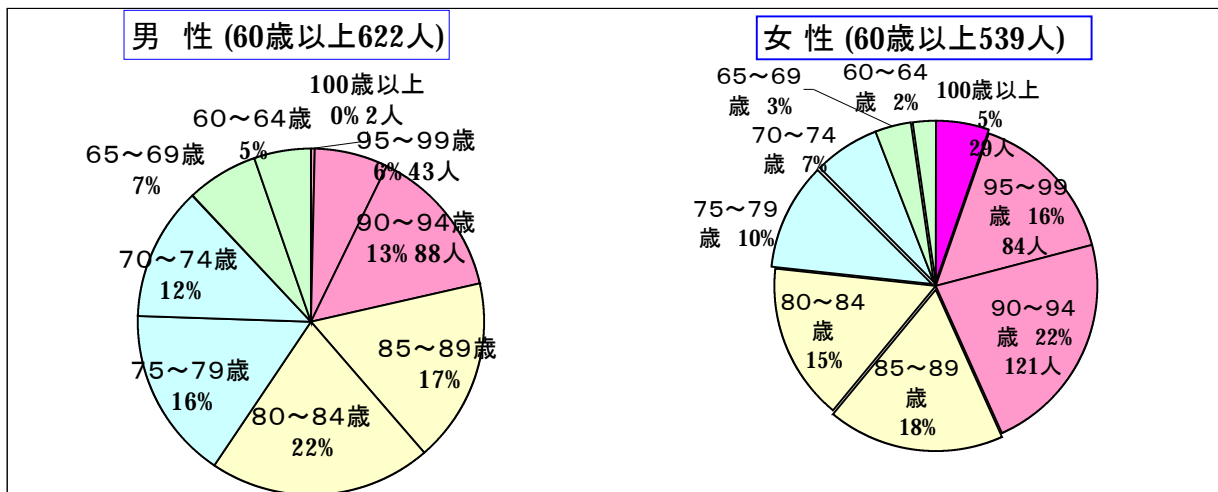
### c 配偶者がいない女性は増え続ける (高齢者とは65歳以上)

2000年国勢調査では、男性高齢者の有配偶率83%に対し、女性高齢者の有配偶率は46%にすぎません。男性の11%、女性の46%が死別により配偶者を失っています(未婚、離婚がほぼ同数)。比率はともかく配偶者のいない女性高齢者の実数は増え続けています。

### d 一人暮らし高齢者の多くは女性

2000年国勢調査では、高齢者総数は2201万人。内ひとり暮らし高齢者は303万人で13.8%を占め、二人暮らしの高齢夫婦世帯(夫が65歳、妻が60歳以上)が366万世帯で人口では33.3%になり、両者を合わせると47.1%と高齢者のほぼ半数を占めます。

一人暮らし高齢者の男女の比率は女性75%、男性25%で圧倒的に女性が多い。



## B-1 高齢者人口と高齢者だけの世帯が急増している

2005.11.10 矢島義恭

### a 高齢者人口は急増している

1980年から2003年までの23年間に高齢者人口は1,391万人増加し、2.3倍にもなった。

### b こども夫婦と同居する高齢者の比率は急減し、4人に1人となった

23年間で人数は微増ですが、全体に占める比率は1980年には53%と半数を越えていたものが、2003年には27%と半減し、4人に1人となった

### c ひとり暮らし高齢者は急増し、7人に1人となった

1980年91万人から2003年の341万人へと、23年間に3.7倍にも増加した。全体に占める比率も1980年の9%から14%に増加し、7人に1人となった。

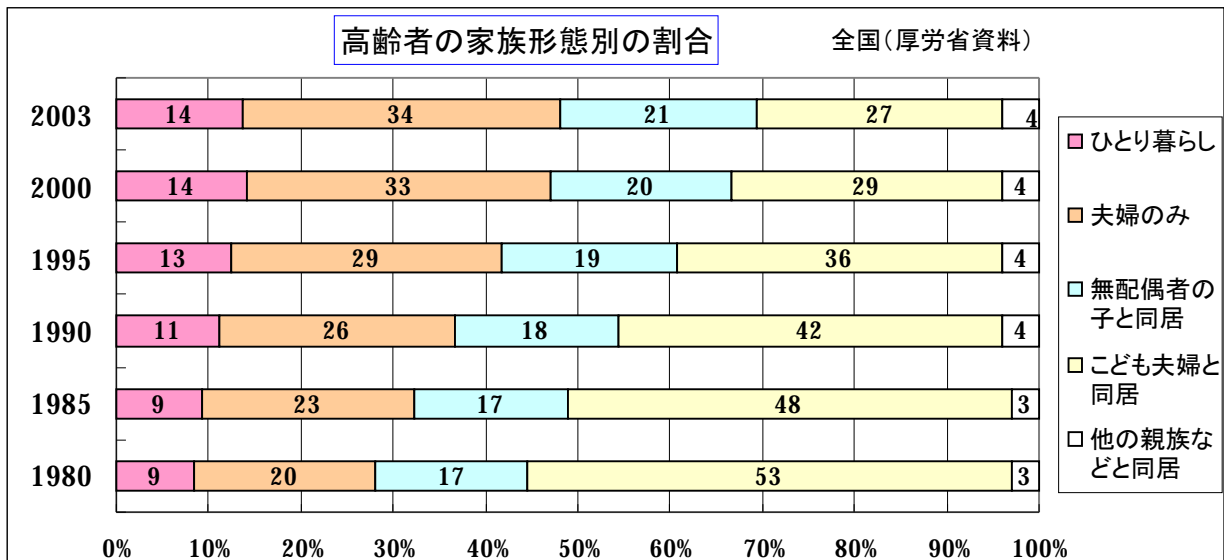
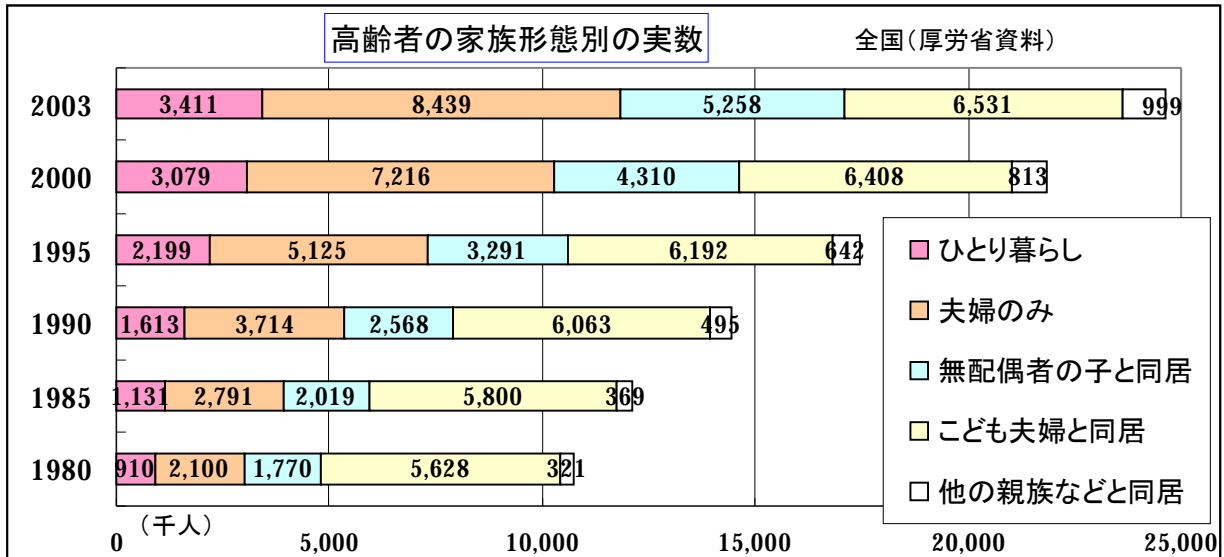
### d 夫婦のみで暮らす高齢者は急増し、3人に1人となった

1980年210万人から2003年の844万人へと、23年間に4.0倍にも増加した。全体に占める比率も1980年の20%から34%に増加し、3人に1人となった。

### e ひとり暮らしや夫婦のみと、高齢者だけで暮らす世帯が急増し、48%と半数近くになった

### f 配偶者のいない子どもとくらす高齢者は急増し、5人に1人となった

1980年177万人から2003年の526万人へと、23年間に3.0倍にも増加した。未婚率の増加や晩婚化により親元で暮らす子どもが増えたためや、子どもの高齢化によるものと思われます。



## B-2 80歳以上の女性は、配偶者のいない方が82%

2005.11.10 矢島義恭

### a 女性高齢者全体で配偶者のいない方は51%、ほぼ半分になります

65歳以上の女性高齢者では、配偶者のいない方が51%と半分を越えています。60歳の平均余命が、女性は88歳、男性は82歳と女性をはるかに長寿であることや、夫婦の年齢が平均的に女性の方が若いからです。

### b 男性高齢者全体では86%に配偶者がおり、女性に較べて比率が高い

女性とは逆に、男性高齢者では配偶者のいない方はわずか14%です。

### c 65～69歳の女性では、配偶者のいない方がすでに30%もいます

30%の内訳は、死別が22%、離別が4%、未婚が4%です。

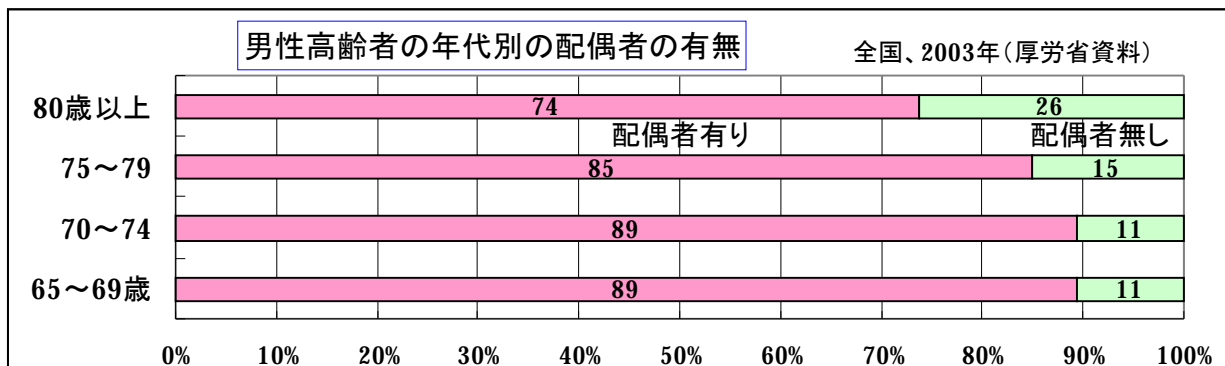
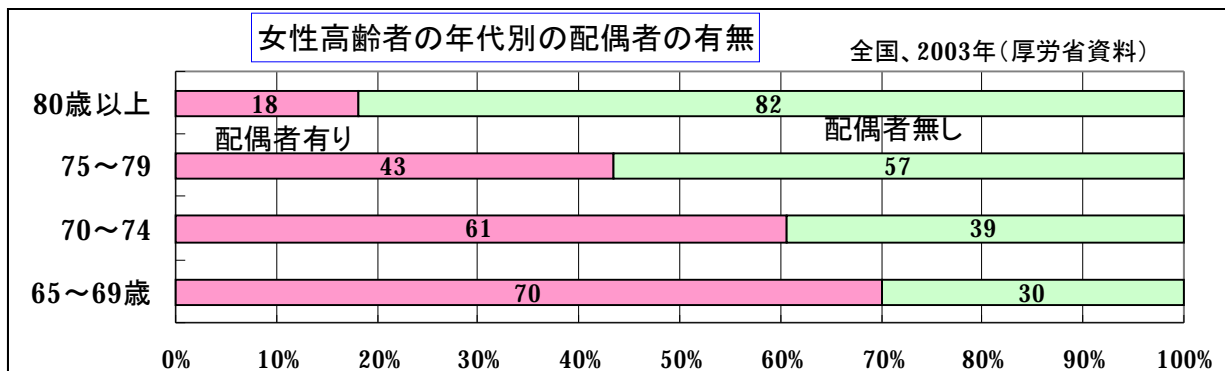
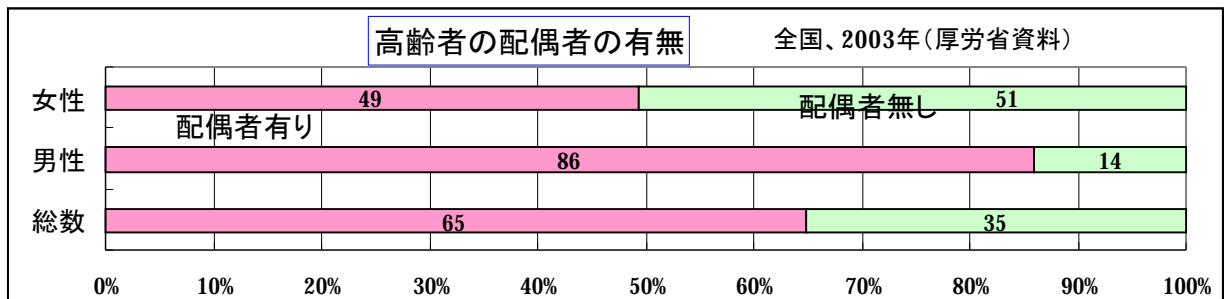
### d 80歳以上の女性では、配偶者のいない方が82%という高い比率です

82%の内訳は、死別が78%、離別が2%、未婚が2%で、死別が圧倒的な要因です。

### e 高齢期を、男性は配偶者と共に暮らせる可能性が高い

### f 女性は配偶者なしで暮らす可能性が高く、歳とともに配偶者なしの人が多くなります

女性高齢者は半分近くが90歳以上の寿命ですが、老いによる衰えが進んだ段階を配偶者なしで暮らす可能性が高くなりました。介護保健の要介護認定者も80歳を過ぎると急に多くなり、90歳以上では60%に達します。核家族化と高齢者の自立意識の高まりで、こどもと暮らす高齢者は少なくなり、ひとり暮らし高齢者が増えています。女性が老後を安心して暮らせるためにどうしたらよいかは、個人にとって社会的にも大きな課題です。



## B-3 80歳未満の配偶者のいない女性高齢者では、ひとり暮らしが半数近い

2005.11.10 矢島義恭

### a 女性高齢者全体の19%がひとり暮らし

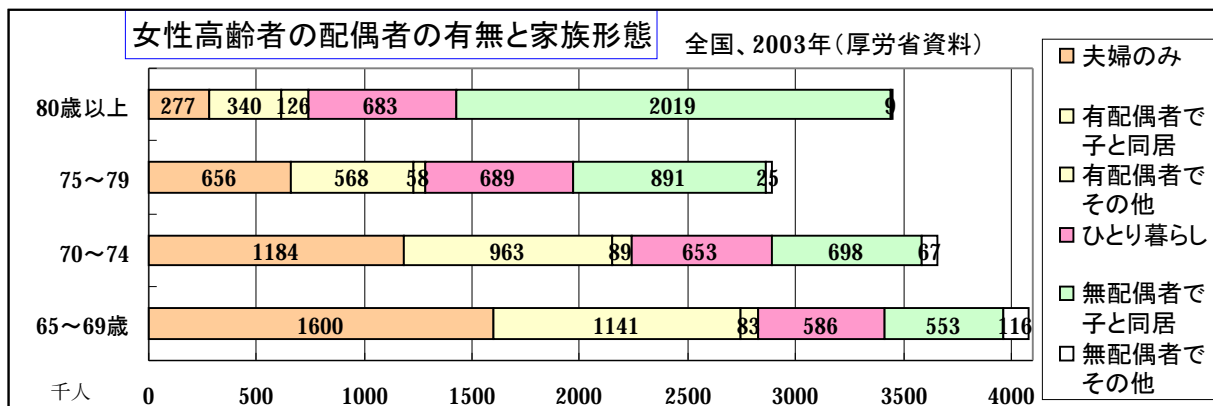
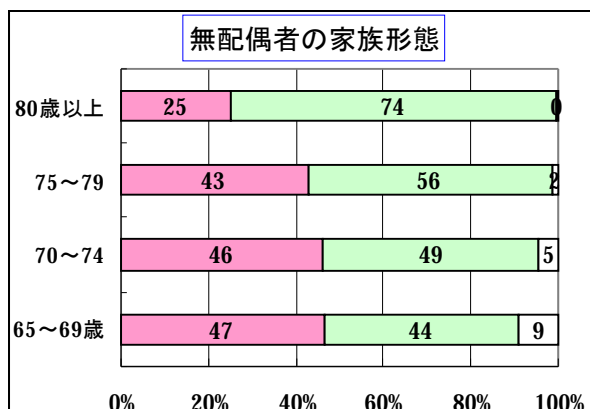
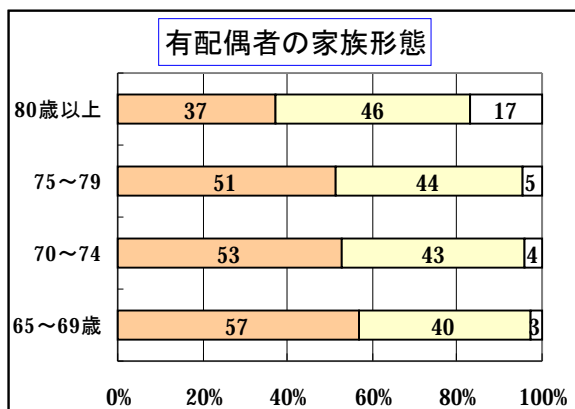
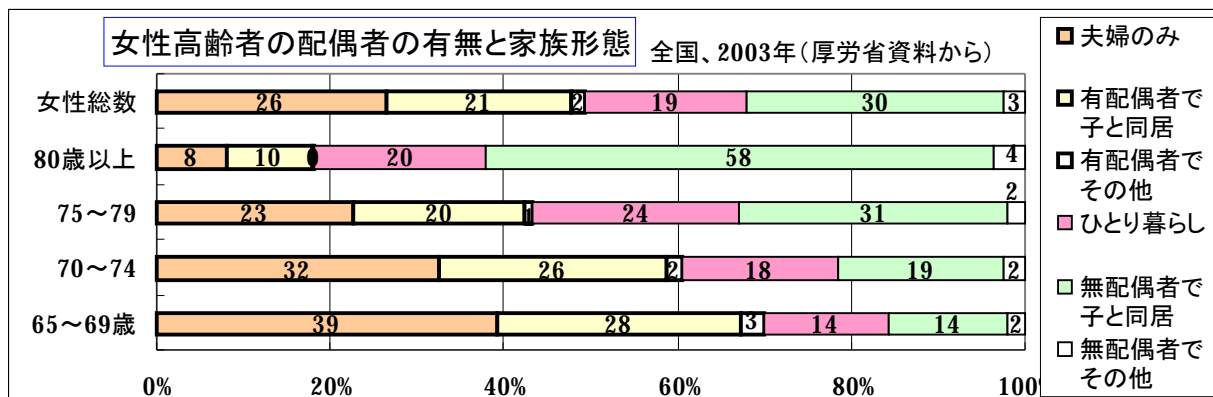
約半数の女性高齢者に配偶者がいない中で、ひとり暮らしの女性高齢者は19%と女性高齢者全体で5人に1人になりました。

### b 配偶者のいない80歳未満の女性高齢者では、ひとり暮らしが半数近い

配偶者のいない80歳未満の女性高齢者では、43%、46%、47%とひとり暮らしの方が半数近くを占めています。夫婦のみの女性高齢者が配偶者を亡くすとひとり暮らしになる事例が多いためと思われます。80歳以上の配偶者のいない女性では25%と比率が比較的低いのは、この年代ではこどもの結婚時にこども夫婦と同居する三世帯家族が一般的であったり、戦死した多くの男性がいた、要介護でこどもと同居したなどの要因が考えられます。

### c 配偶者のいる女性高齢者では、夫婦のみで暮らす方が半数以上です

配偶者のいる女性高齢者でも、こどもと暮らす方が半数以下になり、65~69歳ではわずかに40%となりました。夫婦のみで暮らす方が半数以上で、65~69歳では57%と5人に3人となりました。



## B-4 夫婦のみで暮らす男性高齢者は、全体の半数近くになる

2005.11.10 矢島義恭

### a ひとり暮らしの男性高齢者は、全体の7%で女性より少ない

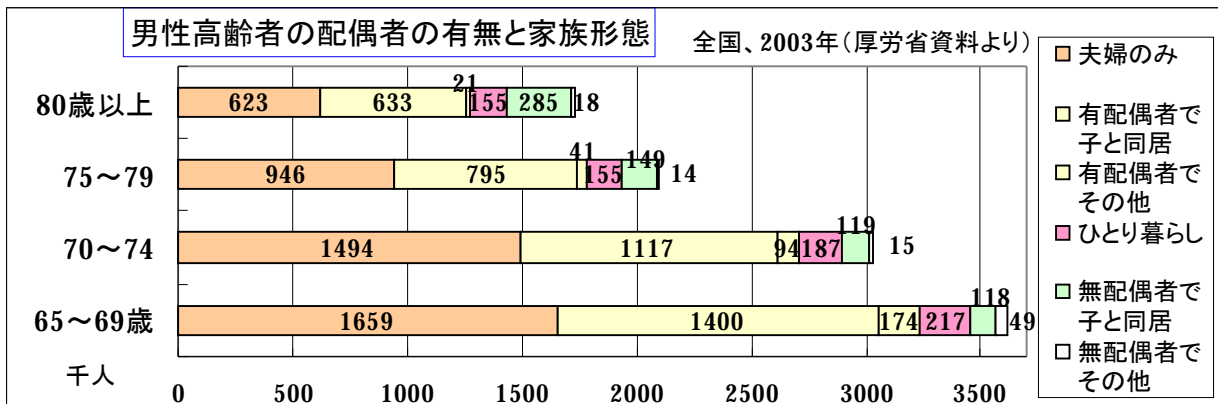
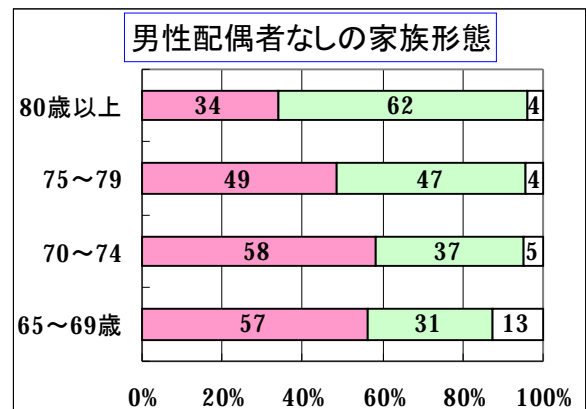
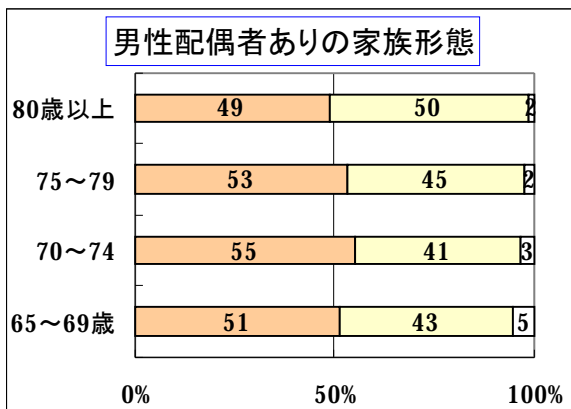
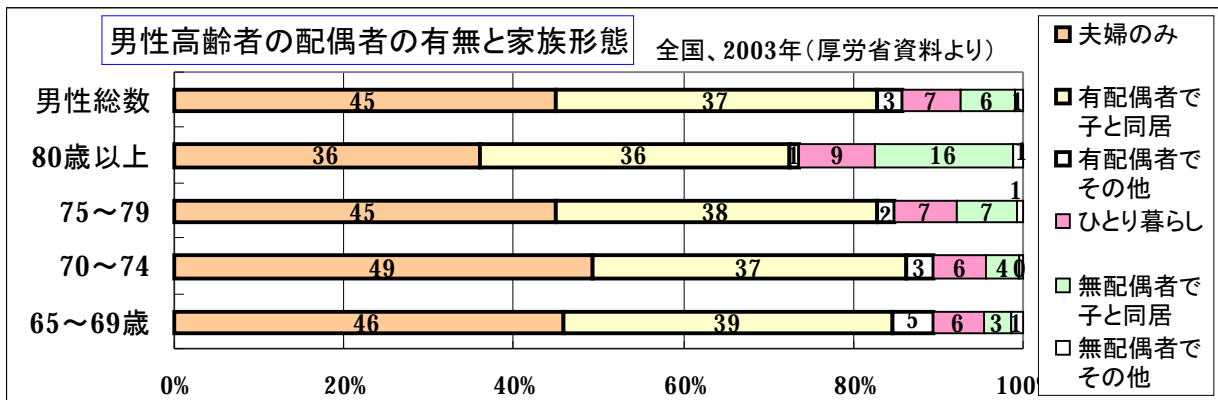
配偶者のいない男性高齢者が女性より著しく少ないのに対応して、ひとり暮らしの男性高齢者も全体の7%と、女性の19%に比べて少ない比率です。

### b 配偶者のいない男性では、約半数がひとり暮らしをしている

配偶者のいない男性の中では、約半数がひとり暮らしをしており、女性に比べると各年代で10%位ずつ多い。

### c 配偶者のいる男性高齢者では、夫婦のみで暮らす方は女性と同様に半数以上です

各年代でほぼ半数以上が夫婦のみで暮らしている。80歳以上で、女性の37%に対し、男性は49%と比率が高い点が異なっている。



## C-1 要介護生活は 80 歳前後から多くなる

—加齢による 要介護生活者の増え方—

17.9.1 矢島義恭

### a 長寿社会となり要介護生活に入るのも高齢化

60歳の男性平均余命は82歳、女性は88歳となりました。平均寿命はその年の0歳児の平均余命ですので、高齢者の場合はそれより高くなります。日本人はまさに長寿社会に身をおくこととなり、以前のライフサイクルの常識が変わってしまい、介護状態に入る年齢も高齢化しています。厚労省の介護保険認定者データをもとに考えてみます。

### b 前期高齢者では、要介護生活は7%以下

65～74歳を前期高齢者と呼びますが、65～69歳では3.1%、70～74歳では7.1%です。介護保険認定されていない自立している方が大部分です。

### c 80歳前後から、要介護生活の人が急速に増えてきます

75～80歳の70歳代後半となると15%になり、7人に一人と増えてきます。

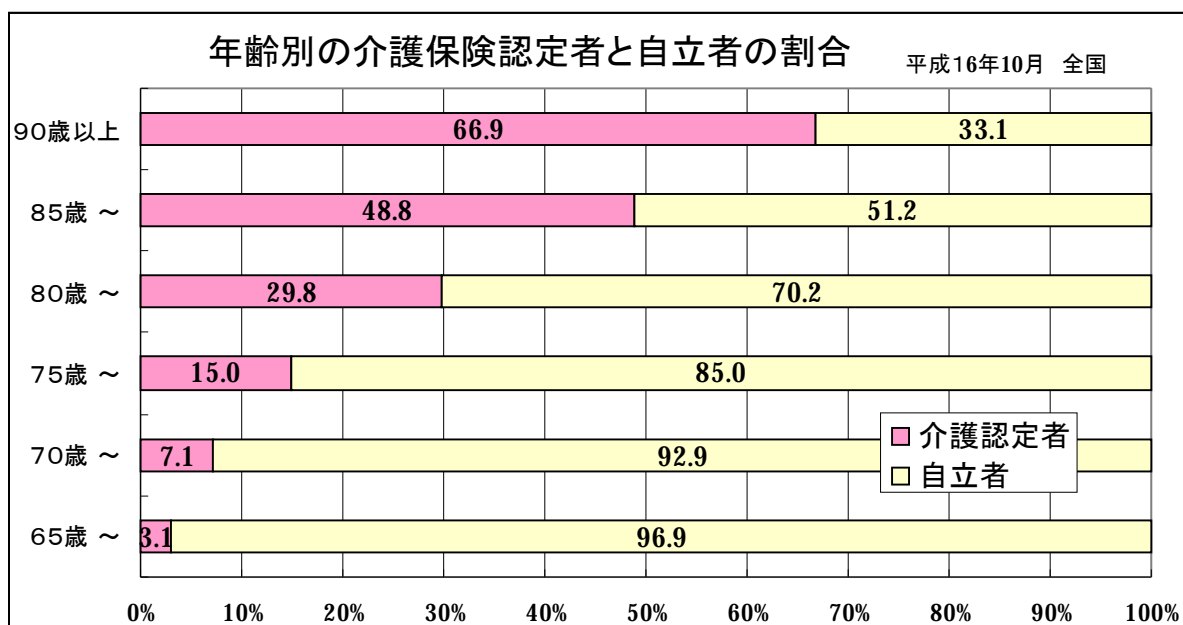
80歳代前半では約30%と3人に一人、後半では約50%で2人に一人となり増え方が早くなります。

90歳以上になると、67%で3人に二人が要介護状態という認定を受けていますが、自立の人も33%います。要介護2、3（認知症の人が多い）の増加が著しいのが特徴です。

### d 親の介護問題に直面するのは50歳前後から、60歳代が多くなります

親子の年齢差を30歳とすると、子どもは自分の子育てが終わった50歳前後から後に親の介護問題に直面することになります。親が子どもを頼りにするのは、子どもが50歳前後になってから後ということです。高齢者夫婦で配偶者の介護を互いに引き受けることができれば、残った一人が親子の本格的な介護問題になるので、もっと遅くなります。また、健康への関心の高まりや介護予防が始まりますから、要介護生活に入る年齢が早まることはないでしょう。

なお、10月の介護認定者総数は4,093,500人で、内介護サービスの受給者総数は3,277,300人でした。従って認定者の内約20%は介護サービスを使っていませんでした。認知症者は全国で150万人とも170万人ともいわれています。



注) 人数データは厚生労働省、介護保険給付費実態調査月報、16年10月より



## C-2 90歳以上の女性では70%が要介護認定

2005.11.10 矢島義恭

### a 女性は男性より沢山の人が要介護生活で暮らしています

80歳以上で集計すると、女性の要介護認定者は全体の47%を占めほぼ2人に1人になりますが、男性は31%でほぼ3人に1人ですから女性は格段に高い比率です。下のグラフの『年代・男女別の介護保険認定者数』をみても、全体的に男性より女性の数の多さが際立っています。

### b 女性は男性より年齢的に早くから要介護生活に入ります

要介護認定者の比率は、70歳代前半の女性では男性6.4%に対し7.7%と若干高く、70歳代後半では11.9%に対し17.2%と差が開き、80歳代前半では男性22.1%に対し34.0%と大変多くなります。この年代では男性の死亡率が高く女性は比較的低いのですが、その反面、女性の要介護生活に入る率は早くから高く、長く続くと言えます。

### c 90歳以上の女性では70%が要介護認定です

90歳以上の女性では、全体の70.4%の人が要介護認定を受けて要介護生活に入って暮らしています。男性も55.8%と高いのですが、女性ははるかに高い比率です。

### d 「女性が安心して老いることのできる社会」に向けて高齢者福祉の検討が必要です

女性の半数近くが90歳以上の寿命になり、配偶者のいる方はわずかとなり、更にひとり暮らしの方も多くなる中で要介護生活ですので、厳しいものがあります。「女性が安心して老いることのできる社会」を確立するためには、これに対応して高齢者福祉、介護保険、高齢者住宅、地域支え合い福祉などを見直し再構築していく必要があります。

